凡例
黒色 デデムシ
茶色 マイマイ
赤色 カタツムリ
青色 ツブリ
緑色 ナメクジ

赤色 カタツムリ
青色 ツブリ
緑色 ナメクジ

凡例
黒色 デデムシ系
茶色 マイマイ系
赤色 カタツムリ系
青色 ツブリ系
緑色 ナメクジ系

青色 ツブリ系
緑色 ナメクジ系

「言語誌叢刊」發刊趣旨

「言語誌叢刊」發刊趣旨

言語の發達と變遷のうちに、その民族生活は反映するものである。我々が人文の事象を觀察するに當り、複雜な關係を闡明する鍵として言語の智識が、非常に大きな役目を果す場合が多く、近時、言語學の重要性が他の學問研究に尠からず認められて來た所以でもある。

民族の生活するところには必ずそれぞれの言語の系統が發達して居り、而も時代と共に絶えず分化し轉化する。殊に言語が、文字によつて傳達される場合には、多く一定の文語體となつて遺される爲めに、その民族生活に生きて語られた言葉そのまゝの姿は段々に忘れられ亡び行く傾向が著しい。そこで、

一、特にこの亡び行く言葉を記錄保有し、その分布地域を調査し、同時に今まで斷片的にしか書き留められてゐなかつた舊い文書を蒐集するばかりでなく、

一、隣接諸民族の言語をも比較研究して、日本の言語との關係を明かにする事は普ねく社會文化の研究に向つて、最も新らしい且つ緊要な一寄與であると思ふ。

我々同人が、茲に「言語誌叢刊」の發刊を計畫し、日本各地方の方言並びに東方諸民族の言語について、系統的にその貴重な調査研究の資料と成果とを江湖に紹介せんとする微意も亦即ちそこにある。

希くば廣く同學同好の士の、この叢刊に來つて、我々と共にこの仕事の達成に助力せられんこと事を。

昭和五年六月

藤岡勝二
新村出
柳田國男

昭和五年七月五日印刷
昭和五年七月十日發行

定價壹圓八拾錢

蝸牛考

版權所有

第一刷

著者　柳田國男
發行者　東京市神田區錦河臺北甲賀町二三番地　尾高豐作
印刷者　東京市神田區錦町三丁目十七番地　白井赫太郎
印刷所　精興社

發賣所　東京市神田區錦河臺北甲賀町二十三番地　刀江書院　電話神田（三二一七）八一九八　振替東京七三一一

言語誌叢刊

第一期刊行書目

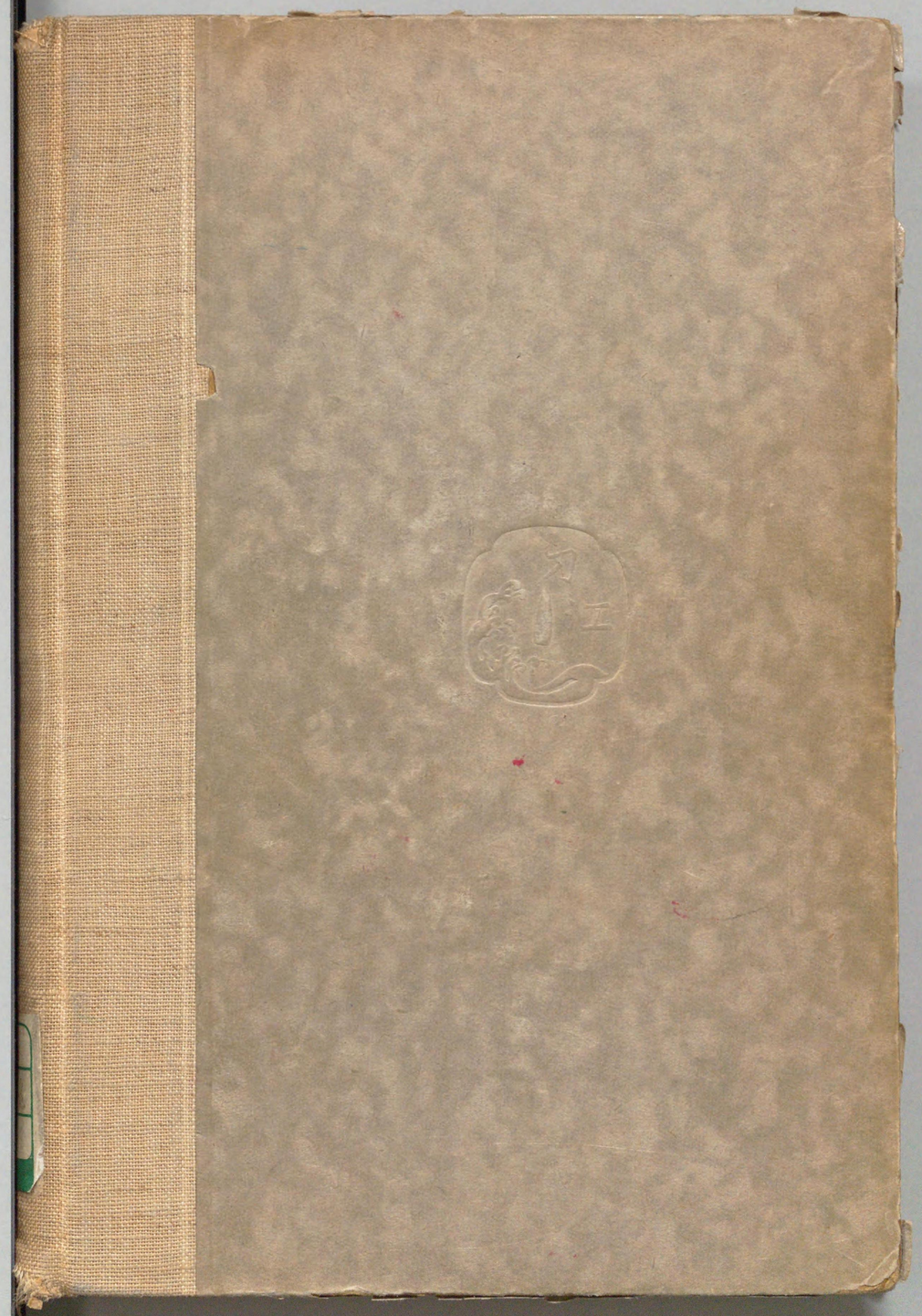
三矢重松著　莊內語及語釋（定價一・五〇）
附　莊內方音攷　氏家剛太夫著
濱荻堀季雄著

山口麻太郎著　壹岐島方言集（定價一・八〇）

東條操編　南島方言資料（定價二・二〇）

柳田國男著　蝸牛考（定價一・八〇）

刀江書院刊行書目

松岡靜雄著	日本古語大辭典（語誌篇）	定價	一〇・〇〇
		送料	四五
松岡靜雄著	日本古語大辭典（訓詁篇）	定價	八・〇〇
		送料	三六
松岡靜雄著	日本言語學	定價	二・八〇
		送料	一八
松岡靜雄著	日本古俗誌	定價	三・二〇
		送料	一二
伊波普猷著	琉球古今記	定價	三・七〇
		送料	一二
伊能嘉矩著	臺灣文化志（上・中・下）	定價	一〇・〇〇
		送料	三六
藤田元春著	日本民家史	定價	六・八〇
		送料	三六
小田內通敏著	鄕土地理研究	定價	二・一〇
		送料	一八
井上吉次郎著	村と町と	定價	一・二〇
		送料	一八
菊池慧一郎著	獨修ラテン語初步	定價	二・〇〇
		送料	一八

書店